

助成事業



助成事業は、こどもの学び支援に取り組む
団体への助成を通じて子どもたちを支援する事業です。



重い病気を抱えるこどもの学び支援

2025年度活動団体…6団体
2025年度採択団体…3団体

医療の進歩で助かる命が増えた一方、治療やケアが必要なこどもの学びや体験の機会
は多くありません。病気があっても自分らしい未来をつくり、成長していけるよう、モデ
ルとなる取り組みをする団体を助成することで、子どもたちの学びを支援しています。

医療的ケア児
約2万人^{※1}

難病のこども
約12.4万人^{※2}

Pick Up

特定非営利活動法人エゴノキクラブ

病気寛解の「その先」へ。学校生活や進学、 お金など、これからのこどもの人生に必要なことを 学ぶ勉強会を実施

一歩先を予測し、準備していくこ
とが大切だとの話も出ました



- 治療のその先を考える講演会・プログラム
- 晩期合併症などの長期フォローアップ(医師)
 - 「教育支援計画書」と、進学・就職・社会生活のためにできる
準備(エゴノキクラブ代表・公認心理師)
 - お金と暮らしの備えかた(ファイナンシャルプランナー)
 - 親亡き後の支援「意思決定支援・成年後見制度」(弁護士)
 - どんな支援が必要かを知るための「認知機能検査」(公認心理師)
 - 学ぶ機会を保障されるための「合理的配慮」(教員)

小児がんなどの重い病気にかかった子どもたちは、体に
負担の大きい治療を受けながら病と闘います。その影響
は病気寛解後も続くことがあり、認知機能の偏りや晩期
合併症が起こる可能性も否めません。病気が治っても、
学習面での困難や体調の不安定さを抱えながら、学校生
活や進学、社会生活に適応していかざるを得ません。

「特定非営利活動法人エゴノキクラブ」が行う「治療の
その先、次の一手」を考える講演会は、こうした寛解後
の困難をある程度予測し、準備しておくためのもの。こ
どもの退院後、気をつけて見るべき観点やマイルストーン
となる年齢、学校生活や進学、就労において無理なく
自分らしく過ごしていくためにはどうすればよいか、親
亡き後も安心して暮らしていくために大切なことなど、
各分野の専門家と保護者が集い、今何ができるかを考え
る時間となりました。

活動の様子はベネッセ
こども基金のサイトか
らご覧いただけます。



※1 医療的ケア児とその家族に対する支援に関する調査(令和6年3月・総務省行政評価局報告書)
※2 小児慢性特定疾病児童とその家族の支援ニーズの把握のための実態把握調査の手引き書(令和4年3月・厚生労働省)



経済的困難を抱えるこどもの学び支援

2025年度活動団体…18団体

社会情勢の家庭経済への影響は大きく、
学び支援を必要とする子どもたちは多くいま
す。環境によって学びや体験の機会が失わ
れることのないよう、こどもの未来を育む取
り組みをする団体を助成し、支援しています。

こどもの
貧困
約9.1人に1人^{※1}

高等学校の
中途退学者
約4.5万人^{※2}

社会的養護
児童
約4.2万人^{※3}

外国ルーツの
こども
約17.8万人^{※4}



Pick Up

特定非営利活動法人うみのこてらす

どこにいても支援が受けられるように。 地域の特徴を生かし、人とのつながりをつくりながら こどもの学びを支援するモデルづくり

経済的困難を抱えるこどもの学び支援として、居場所づ
くりや学習支援などの活動が広まってきています。一方、
活動内容が同じでも、都市部、過疎地、離島といった地
域特性によって、活動のスタイルや課題、生かせるリソ
ースも異なります。

「特定非営利活動法人うみのこてらす」の活動拠点は、
徳島県の小さな町。「どこに住んでいても子どもたちが
未来をあきらめないように」との思いで、オンライン学
習サポートや長期休みの交流会などに取り組んでいます。

過疎地においては支援する側の人材が集まりにくい
という難点もありましたが、こまめにSNSを更新したり、
プログラムの魅力度を上げたりと県外からも集まる工夫
をしています。長期休みのイベントでは、地域の空き家
を活用して宿泊プログラムを実施するなど町のリソース
を活用。地域とのつながりを得ることで、こどもの支援
に関わる人の輪を広げることも目指しています。
人が少なくても、地域の魅力や特性を生かして工夫する
「過疎地での活動モデル」を確立し、機会の格差解消を
目標に活動しています。

オンラインで充実した学習サポ
ートができるよう、アバターを活用
しながらしっかりとした学習計画
に基づいて支援しています



夏休みの科学教室イベン
トには、県外から科学に詳し
い支援者が駆けつけてくれ
ました(写真は2024年度)



※1 2025(令和7)年国民生活基礎調査(厚生労働省)
※2 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)
※3 令和7年12月社会的養育の推進に向けて(こども家庭庁)
※4 令和7年度外国人の子供の就学状況等調査(文部科学省)

活動の様子はベネッセ
こども基金のサイトか
らご覧いただけます。



助成事業における非資金的支援



研修やつながり・交流の機会提供で、活動の基盤を固め、ネットワークを広げる

助成事業に参加する各団体にとって、こどもの学びを支える活動を続けていくためには、それぞれの団体自身の持続可能性が欠かせません。

そこでベネッセこども基金では、団体の課題や成長フェーズに応じて知識・スキルが学べる研修や、課題・成功事例について理解を深める機会、団体同士でノウハウ交換やネットワークづくりができる交流の機会を設けることを大切にしています。

私たちが非資金的支援において大切にしていること



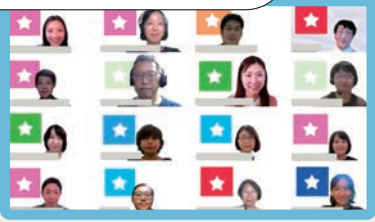
交流会での、学びとつながりづくり

助成団体同士が集まり、共通の悩みや活動の接点を見つけ、今後の活動のヒントを得るための場です。2025年度はオンラインと対面で計2回の交流会を実施。対面の交流会では助成テーマを超えて多くの団体が一堂に会し、こどもの学び支援について広い視野で学び合う場となりました。



ソーシャルビジネスの先駆者や行政を巻き込む好事例など、貴重な学びが満載の交流会

オンラインでの交流会では、子どもの権利について学び、意見交換



少し違う視点から自分たちの事業をとらえる機会は重要だと感じました。

これだけ寄り添ってくれる助成機関は初めてで、ベネッセこども基金のことがより好きになりました。

互いの団体の活動内容や知見を交換し合い、交流。新たなつながりが生まれ、事業に結びつくことも

研修会での、スキル習得

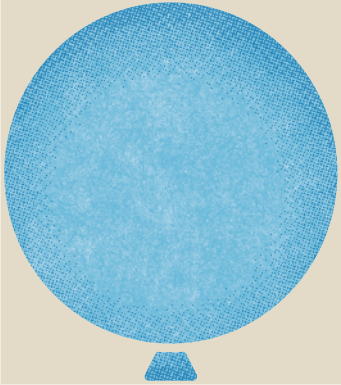
個々の団体の成長フェーズに合わせて、少人数で専門家からスキルを学ぶ研修会です。ニーズにマッチした内容で理解が深まり、自団体の課題解決にもつながります。

- 【実施した研修】
- 資金集めだけでなく仲間集めの手法を学ぶ「ファンドレイジング研修」
 - 協力関係を引き出す手法を学ぶ「協力のテクノロジー研修」

助成金だけでなく、伴走支援が充実しており、とてもありがたいです。

ほかの団体と共通の認識が生まれ、互いに新しい選択肢も生まれそうです。

活動の様子はベネッセこども基金のサイトからご覧いただけます。



2025年度活動した助成団体一覧（2022～2024年度採択）

重い病気を抱えるこどもの学び支援	特定非営利活動法人エゴノキクラブ	小児がんの子どものリーダーシップ育成事業
	認定特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ	心のケアを軸とした長期入院治療を経験したこども達への社会復帰支援
	一般社団法人Child Play Lab.	入院中の小学生を対象にした、ライフアドベンチャー教育のモデルづくりと検証事業
	特定非営利活動法人北海道こどもホスピスプロジェクト	LTCの子どもと家族の状況を学びで改善する仕組みづくり～他地域展開～
	特定非営利活動法人ポプルワークス	病院や自宅等で療養生活を送る子どもたちの内面を豊かに育む、映像制作ワークショップ実施事業
経済的困難を抱えるこどもの学び支援	特定非営利活動法人にこり	法泉寺けあらば（医療的ケア児とその家族のQOL向上・災害対策に向けた旅行支援）
	認定特定非営利活動法人茨城 YMCA	「モンゴルこどものオルドン」在日モンゴル人の子どもの学習支援・居場所づくり・文化体験を行う事業
	特定非営利活動法人ABCジャパン	神奈川県・群馬県の外国につながる子どもの状況調査・教育相談とフリースクールのモデル化事業
	特定非営利活動法人かごしまヤングケアラー支援ネットワーク	“負の連鎖”を防ぐ為、離島の生活困窮家庭のヤングケアラーの学習支援及び生活支援事業
	特定非営利活動法人さが子ども多文化センター・わーどりんぐ	外国にルーツを持つ子どもへの教育支援事業「わーどりんぐ」
	認定特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金	横浜市の県営団地における子どもたちの居場所づくりプロジェクト
	一般社団法人UMEプロジェクト	経済的困難を抱える母子施設のこどもたち（小学生～高校生）のための地元大学と連携した支援ネットワークモデルの構築
	認定特定非営利活動法人e-Education	同郷者による外国につながる子ども（越境児童）のオンライン教育伴走プログラム（全国展開を見据えた自治体モデルの構築）
	特定非営利活動法人うみのこてらす	過疎地域の困難を抱える子どもに出会いと意欲と学びを届ける新たな学び支援モデルの構築
	認定特定非営利活動法人オリーブの家	傷つきを抱えた子どもに生きる力を育む地域連携体験学習 孤立防止オリーブキッズサポートランチ宅配事業
	一般社団法人くじら寺子屋	進学に課題を抱える中学生・高校生・高卒認定の受験サポート及び県外受験同行支援
	一般社団法人ソウレッジ	支援者向け性教育学び直しワークショップ「ブレイクスごろく」
	特定非営利活動法人BORDER FREE	放課後学習教室（いつでも大学生に質問できる勉強スペース、家庭、学校に次ぐ第三の居場所としての機能）さくら教室（高校受験や英検試験対策を行う集団授業形式の事業）
	認定特定非営利活動法人アイキャン	地域連携による外国にルーツを持つ就学前のこどもの日本語・母語の教育環境整備事業
	一般社団法人Kids Code Club	貧困の連鎖を断ち切るための総合的なデジタルスキル学習サポート

2025年度採択が決定した助成団体一覧（2026年度活動）

- 募集期間：2025年6月17日～2025年9月1日 ● 応募数：34件
- 採択事業数：3件 ● 助成総額：4,910,000円
- 助成対象期間：2026年4月1日～2027年3月31日

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
一般社団法人顔晴れ会	小児がん・長期療養児のための社会とつながる学びと体験創出事業	沖縄県	1,840,000円
特定非営利活動法人Colorbath	ひろがれ、セカイ～病院の教室から世界とつながる学び～	福岡県	970,000円
一般社団法人Child Play Lab.	病気とともに生きる小学生を対象にした、ライフアドベンチャープログラムのモデルづくりと検証事業	東京都	2,100,000円